

Actinidia 属植物の種間交雑個体における形態的変異

末澤克彦

キウイフルーツの新品種育成を目的として 2,3 の Actinidia 属植物(*A. deliciosa*, *A. chinensis*, *A. arguta*)間での種間交雑を試みた。

1. 今回行ったすべての組み合わせで種子が得られた。しかし *A. chinensis* を種子親とした組み合わせでは実生個体が得られなかった。

2. *A. arguta* を片親とした組み合わせでは葉形が両親の中間的な形質を示すものが多かったが,*A. deliciosa* と *A. chinensis* の交配では両親の葉形が近いことと実生の個体差が大きいことから葉形では雑種性の確認は難しかった。しかし、冬芽の状態が両親の中間的な形態を示すものが見られた。